

小池 宏明 牧師

今年は、2月22日(水)から受難節(レント、四旬節)が始まっている。今回から、イエス様の自己証言を取り上げる。

***イエス・キリストは門**

9節「わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら救われます。また出たり入ったりして、牧草を見つけます。」当時の羊飼いは、中庭にフェンスを付けて門を付けて、夕方には羊たちを放牧場から集めて中庭に入れて、狼などの天敵から羊たちを守っていた。イエス様という「門」とは「救いの門」である。またその門はすべての人々に開かれている平安と喜びの入り口である。イエス様はすべての人に呼びかけている。イエス様の呼びかけに応えることができたクリスチャンたちは、イエス様がすでに選んでいる一人ひとりである。主の御心があったからこそ、私たちはキリストの教会に集まることが許されたのだ。

***イエス・キリストは良い牧者**

11節「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。」牧者とは羊飼いのこと。イエス様は牧者である。しかも、よい牧者である。良い牧者とは、羊のためにいのちを捨てる。私たちはキリストが私たちの身代わりになっていのちを捨てて下さったからこそ、罪が赦され、生きる者に変えられた。しかも、永遠のいのち、父なる神様と結び付きたいのちが与えられた。この恵みをいつも感謝する者でありたい。

***主の羊として生きる私たち**

主イエス様に飼われている「羊」として大切な心構えを27節から確認できる。「わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。」私たちの周りには、私たちをだまして、私たちの心を盗んでしまおうと、耳触りの良い誘惑の音がたくさん響いている。その中から良い牧者であるキリストの御声を聞き分けることが大切なのだ。イエス・キリストの御声は、聖書の中に、たくさん響いている。常に聖書に親しむことを心がけたい。続いて、キリストの羊として、大切な心構えは「キリストについて行くこと」。私たちは、救い主であり、良い牧者であるイエス・キリストから離れることなく、いつも、キリストに付いて行くのだ。イエス・キリストだけが、あなたを大切にして、あなたのためにいのちを捨てて、あなたを守り、支え、養い育てて下さる唯一のお方なのだ。

私たちは、良い牧者イエス・キリストに守られ、養われている羊として、道を踏み外すことなく、イエス様の御声を聞き分け、イエス様に付いて行く決心をしよう。